

古文書を読む会学習記録

作成日 平成29年10月 4日

開催日	平成29年9月28日	時 間	10:00~12:00
場 所	金沢公会堂リハーサル室	出席人数	16名
講 師	真田 雅行氏	作成者	内田 孝知
テーマ	第二学習 艱難実録（箱館戦争）② テキスト：艱難実録 上		
概 要	<p>（前回より）程なくご帰館、齊（同僚）他伺候、全くの御敗軍にて、既に慶喜公は軍艦にて君公・会侯（松平容保）・桑侯（松平定敬）其外、僅かの御供で品川沖へ着、君公（板倉勝静）以下は家来一人も連れずとの事、一同あ然とする。</p> <p>一．君公は大阪城に残り総引上げの指揮取るべき方しか止む無し、猥に騒がずに、会・桑は同意するが、陸軍は奮発、朝廷に対して異存は無いが、対討薩の建白書差出したが、朝廷へは届かず</p> <p>一．翌11日朝 会津邸へ小子出向く、留守居神尾鉄之丞へ相談の処、会侯御城よりお書き下され、略承知しているが昨夜の次第会藩は別して申し聞き引き取った、夜に帰館殿中評議決まらず</p> <p>一．諸役人御越し、用談大混雑、邸中にて藩士一同会議、漸く決まり、夫々御手配討薩の儀、天下へ布告、御再挙成らずとも相成らずとの評決、小子相認め上書したが行われず</p> <p>一．大意は討薩の挙、天下へ布告、一ツ橋公は駿府へ御出馬、中山道の方は会津侯、総督として近傍の御譜代諸侯を手配、甲府御出馬。海軍総督軍艦にて大阪へ、紀州公南海・西国の総督にて御指揮。御譜代諸侯方より建白且方向お決めの儀切迫に付き御使者差越し、応対に小子、数日混雑</p> <p>一．邸中評議するも御在所松山の様子分らず、音信不通、金米差支え眼前の事、元々役三田始め家中衆もとに一人宛塩増料百銅ツと取決め願出、その外節儉の件急速に相運ぶこと</p> <p>一．小子儀御用人迎せ付けられ、時節柄勤まらなると辞退したが齊・亘等が辞退する場合ではないとの厳敷く議論受け止むを得ず受ける</p> <p>一．慶喜公恭順と決し、君公は隠居、木挽町中邸にてご謹慎、ご家督は万之丞様へ、慶喜公の恭順の御意志貫く、君公より朝廷に嘆願書差出事に決定、御家来にては不敬との事より輪王寺宮、増上寺方丈、一橋公へ差出し官軍総督軍門へ出す。君公の謝罪の嘆願書、尾州侯、越老公他へ相頼む</p> <p>一．慶喜公は東叡山へ謹慎、恭順に御障り有つてはと会津侯当地を立ち退き会津表にて謹慎、桑名侯越後領地にて謹慎、君公には如何と一翁へ相談、薩人申すには会桑暴論致し、江戸表にての居場所無く御祖先の御木像有りの事ゆえ、日光山にて、謹慎、万之進様も結局同行</p> <p>一．3月9日江戸引き払い日光山御宿坊南照院へ入る、この事、徳川家、日光宮様、官軍総督へお届け。是まで嘆願書届き申さず、御一身も危うくと一同心配、万一の時は日光山より会津へ入り、会津にてお世話を頼む事、翁邸にて談、会津手代木（てしろぎ）、神尾他、小子、泰輔他出席</p> <p>※鳥羽伏見の戦いの後の幕府側の混乱振りが推察出来る情景の描写</p>		
備 考	資料：①登場人物解説・地図②箱館戦争（井沢氏・逆説日本史の一部）③「五稜郭政府」解説文		
次回予定	平成29年10月12日 10:00~12:00 於：金沢公会堂リハーサル室 第一学習 宿村・森家文書 ③		